

有馬頼寧 ありま ねい 政治家。明治十七年十二月十七日東京生れ、昭和二十二年一月十日歿（八十四歳）。明治四十二年東京帝國大學農科大學卒。同大助教授、農商務省嘱託を経て、大正十二年衆議院議員。同愛會會長として水戸社運動の先驅を爲し、また農事研究会を興して農民運動を援助するなど、華實界の反逆兒と稱なづされた。昭和四年貴族院議員、うち農林政務次官、第一次近衛内閣農相に就任。十五年大政翼賛會初代事務總長。戦後戦犯容疑で拘束、八公職追放解除後は中央競馬會理事ととなり、競馬の有馬記念の由来者。俳諧師。小説家有馬頼ありま義よしはその三男。

著書に、『現代社文化大學十六講』（他十四名合著・長田曉之編、大正十二年二月二日雄新社、裕洲堂出版部）、『議政壇上の叫び』（有馬頼寧氏演説集）、『豊福保水編』（昭和二年六月一日十七日會本部）、『農人形』（有馬頼義編、昭和十二年十一月十六日同會書房）、『上ぎ語る』（有馬頼義編、昭和十四年一月二十五日砂子屋書房）、『無常庵雜記』（昭和十五年五月七日改造社）、『友人近衛』（昭和二十二年

十月）二十五日弘文堂「アテナ文庫」、『政界道中記』（昭和二十六年一月）二十日日本出版協同株式会社）、

『花賣爺』（昭和二十八年八月十日全
國農業出版株式會社）、『ひとくちこと』
（有馬頼義編、昭和二十二年四月一日

作品社）等の他、早迹
し六十頼秋の遺稿等と



収めた『道中』（大正十四年九月）二十五日有馬頼義編



